

質問と答え

問 LRTは誰が運営するの？

答 LRTは公設型上下分離方式によって公共（本市・芳賀町）が軌道や停留場などの施設、車両を整備・保有し、「宇都宮ライトレール株式会社（※）」が借り受け、運行を担います。今後、開業に向け民間軌道事業者の技術協力のもと、運転士の養成などに取り組み、平成31年度の運行開始を目指します。



▲「公設型上下分離方式」のイメージ

問 LRTの利用者数と運営収支の見込みはどれくらいなの？

答 利用者数は「県央広域都市圏生活行動実態調査」結果などから、1日当たり1万6318人と推計しています。運営収支は運営が本格化する平成32年度から単年度で赤字を計上する見込みです。

1日当たりの目的別利用者数 (人)

	通勤	通学	業務	私事	合計
平日	13,357	1,305	274	1,382	16,318
休日	2,671	131	82	2,764	5,648

運営収支見込み (開業4年目)

収入	年間 約9.8億円 (運賃、雑収入など)
支出	年間 約8.5億円 (人件費、経費、租税公課など)

こうした試算から、需要の定着が図られる開業4年目（平成34年度）の運営収支は約1.3億円の赤字となり、開業前経費によって生じた累積損失は開業9年目で解消する見込みです。

問 市の財政規模でLRTの整備は可能なの？

答 LRT整備の概算事業費は本市の優先整備区間で約412億円と試算しています。その約2分の1は、国の支援を受けられる見込みです。仮に地方分の事業費全額を本市が負担するとし、その9割に市債を活用すると、単年度当たりの支出額は最大13億円となります。この額は、中核市の中でも上位の財政力があり、毎年度約1900億円規模の一般会計予算額を計上し、このうち約1100億円の一般財源を有する本市の財政規模から十分に対応が可能です。

問 LRTを整備することで周辺交通は悪化しないの？

答 一部の区間で現在より車線数の減りますが、車1台1台の動きをコンピューター上で再現する交通シミュレーションを用いた検

証や関係機関との協議を行い、一部区間の高架化や交差点部の改良、信号点灯サイクルの調整などに取り組み、LRT整備後も交通の円滑化が確保できることが確認されています。

宇都宮市区間の事業費構成イメージ



※分かりやすくするため、事業費を400億円と設定しています。
※整備期間を4年、償還期間を20年、利率を2パーセントで試算しています。

※本市と芳賀町が主体的な役割りを担い、地元経済界や交通事業者の出資を得て平成27年11月9日に設立した官民連携による会社です。行政の社会的信用や確実性・安定性、民間の営業力や迅速性など、それぞれの強みを生かして運転士や技術職など、運送事業に必要な人材の確保などに取り組んでいきます。

